キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テンコ盛り。

つひまぶ LGBT号

つながるひとまちぶんか

2015 11月号

北区魅力発信フリーペーパー「つひまぶ」vol.6　2015 年 11 月 1 日発行（毎年 3･7･11 月発行予定）　**編集・発行：**つひまぶ実行委員会／大阪市北区役所＋北区のおもろ通信団（浅香保ルイス龍太・棚橋真理・藤堂千代子・山田寿也・山本宜弘・依藤智子）＋大阪市職員ボランティア　**連絡先：**大阪市北区役所（大阪市北区扇町 2-1-27）【tel】06-6313-9743 【fax】06-6362-3821 【mail】tsuhimabu@gmail.com 【blog】http://tsuhimabu.blogspot.jp（誌面に載せきれない情報はブログでね♥）　**定価：**0 円　**主な配布場所：**大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンターほか多数（配布場所はブログにて随時お知らせします）
※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。

LGBTって何だ？

『レインボーフェスタ 2015』（扇町公園）にておこなわれた、女性２人による「平等結婚式」

LGBT 便利帳

ここで紹介するそれぞれの団体の情報は、予告なく変更になる場合もあります。事前にご確認のうえ、ご利用ください。

コミュニティ

■ dista

【TEL】06-6361-9300
【HP】http://www.dista.be/

ゲイのコミュニティセンター。HIV や性感染症について知りたい人や相談したい人は、ぜひこちらへ。丁寧に話を聞いてくれて、一緒に考えるお手伝いをしてくれます。電話相談や対面相談もあり。

■ QWRC（くぉーく）

【所在地】大阪市北区西天満 4-5-5
マーキス梅田 707 号室
【HP】http://qwrc.jimdo.com/

セクシュアリティを自由に表現できる社会の実現を目指し、講座の開催や電話相談などを実施。同時に、セクシュアリティやジェンダーをテーマとして活動する個人や団体の活動をサポートするよう、事務所やミーティングのスペースを提供しています。コンタクトは HP 内の「お問い合わせ」から。

電話相談

■ よりそいホットライン（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）

【TEL】0120-279-338
【HP】http://279338.jp/yorisoi/

自殺予防・DV・性暴力・セクシュアルマイノリティの専門回線があります。外国語や聞き取りが難しい方のための対応もあります。24 時間受付。通話料無料。

■ こころの相談・からだの相談（AGP）

【TEL】050-5539-0246
【HP】http://www.agp-online.jp/

こころの相談／毎週火曜 20:00～22:00 受付。同性愛者の悩みや心の問題について対応。家族の方からの相談も OK。からだの相談／第 1 水曜 21:00～23:00 受付。同性愛者の身体の悩みや病気について対応。

■ coLLabo LINE（NPO 法人レインボーコミュニティ coLLabo）

【TEL】03-6322-5145
【HP】http://www.co-llabo.jp/

第 1 土曜 12:30 ～ 15:00 実施。同じセクシュアリティ同士の経験をもとにした、仲間としての立場から相談に乗ってくれます。レズビアンと多様な女性（セクシュアルマイノリティの女性）と、その家族・関係者を対象にしています。

■LGBT の家族と友人をつなぐ会

【TEL】090-6055-2424
【E-mail】family2006@goo.jp
【HP】http://lgbt-family.or.jp/

電話、メールともに、随時受付。家族や友人が LGBT 当事者を受け入れられるよう、サポートを受けられます。

■性と人権ネットワーク ESTO

【TEL】080-6049-8843
【E-mail】esto@estonet.info
【HP】http://estonet.info/

電話は平日 20:00 ～ 22:00、土日祝 13:00 ～ 22:00、メールは随時受付。性同一性障害や性的指向、性分化疾患などに関することの相談に乗ってくれます。

■ LGBTs のための電話相談（大阪弁護士会）

【TEL】06-6364-6251
【HP】https://www.osakaben.or.jp/info/2015/2015_0422.pdf

第４月曜 16:00 ～ 18:00 受付。LGBTs はじめ，さまざまな性的指向や性自認を有する方のための専門電話相談。弁護士対応。相談料無料です。

■LGBT 電話相談（淀川区 LGBT 支援事業）

【TEL】0570-009-918
【HP】http://niji-yodogawa.jimdo.com/

第 1 ～ 4 月・水曜 17:00 ～ 22:00 受付。友人との関係、学校のこと、職場のこと、恋愛、パートナーとの関係、家族との関係、セックス、性感染症、LGBT かどうかわからない、少しだけ話してみたい… etc 当事者だけでなく、家族や友人からの相談も受け付けています。

■ HIV サポートライン関西（NPO 法人 CHARM）

【TEL】06-6358-0638
【HP】http://www.charmjapan.com/hiv-supportline/

月・水曜（祝日は休み）19:00 ～ 21:00 受付。HIV 陽性の人とパートナー、家族のための電話相談。匿名で利用できます。電話をかけてきた方の番号は表示されません。本名や住所など個人が特定できる情報も聞かれません。

HIV・性感染症検査、情報

■ 北区保健福祉センター

【所在地】大阪市北区扇町 2-1-27
【TEL】06-6313-9882
【HP】http://www.city.osaka.lg.jp/kita/page/0000246793.html
【検査受付】月・火・木・金／ 9:30～11:00
水／ 14:00～15:30

■ chot CAST なんば（大阪 検査相談・啓発・支援センター）

【所在地】大阪市浪速区難波中 1-6-8
イチエイ総合ビル 3F
【TEL】火・木・土／ 06-6632-0632
（スマートらいふクリニック）
日／ 06-4256-8681
（サンサンサイト JHC クリニック）
【HP】http://www.chotcast.com/
【検査受付】火・木／ 18:00～20:00（先着 50 名）
土・日／ 14:00～15:30（先着 50 名）
※土・日は 13:30 から整理券を配布

■ 大阪府エイズ・HIV 情報

【HP】http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikansen/aids/jouhou.html

HIV やエイズの基本的な情報について解説しているページ。
大阪府域の検査機関の情報、治療拠点病院、HIV についての相談窓口の情報も掲載されています。

■ SAFER SEX Info

【HP】http://www.safersex.jp/

ゲイ、バイセクシュアル男性の HIV や性感染症について知りたいとき、セーファーセックスについて迷ったとき、感染の可能性が考えられるとき…。そんな疑問や悩みを持ったときや、もっとセックスを楽しみたい人に向けた応援サイト。

編集後記

ドラァグクィーンのショーを見ながら「女らしさって、どこから来るんだろう？」「男らしさって？」ぼんやりと考えていました。ステージに立って、歌い踊るドラァグクィーンの姿は、特別な動きなんてなにもしていないのに、とても女らしく見えて、その一挙一動にくぎ付けになり、魅せられます。ショーが進んでいくと、そんなことはどうでもよくなり、「キレイに性別はないんだよな」とあたりまえのことを思い出したりするのです。今回は、そんな瞬間の連続でした。体を鍛えることや筋肉について熱く語る人に会ったのも初めてでした。自分をどう見せるかを意識するってこういうことなんだな、と感じずにはいられません。外見だけでなく、取材に応じてくださったみなさんのキャラの濃さにも圧倒され、魅了されっぱなしでした。人を知ると、そのぶんだけ、新しい発見があって、おもしろいことが増えます。つひまぶをつくっていて楽しいのは、じつはそんなときです。（毬）

「つひまぶ」ブログ
毎週月・木更新
http://tsuhimabu.blogspot.jp

「つひまぶ」では、編集メンバーを随時募集しています。興味がある方は、Facebook にてご連絡いただくか、大阪市北区役所地域課区民協働担当（tel. 06-6313-9743）までご連絡ください。

大都市・キタの魅力のひとつは〝多様性〟LGBTはそのことをあらためて教えてくれる

西陽に照らされながら、パレードを終えて清々しい顔をした人たちが扇町公園に帰ってくる。虹色に彩られたフラッグを手にする人たちに混じって、無数のプラカードを掲げる人たちがいる。「みんな違っていい」「すべての家族は平等」「同性が好き。性別に違和感がある。そんな人が世の中にいます」「身近にセクマイがいるように…身近にアライはいます」。セクマイはセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の略で、アライ（ally）とは、人権の平等化や男女同権、LGBTの社会運動の支援をおこなう当事者以外の人々を指す。つまり、理解者や仲間のことだ。

10月10日、扇町公園にて、『レインボーフェスタ！2015×関西レインボーパレード10』が開催された。多様な〝性〟について考えるきっかけをつくり、すべての人がより豊かな〝性〟を享受できるよう開催されたフェスタは、今年で3年目を迎え、パレードは10年を数える。今年は約7000人が来場し、国内外からセクシュアル・マイノリティを含む約1000人がパレードをおこなった。

LGBTとは、レズビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（性同一性障害を含む性別越境者）の人々を意味する頭字語で、近頃では、よく目にするようになった。

LGBTという言葉が少しずつ浸透してきたことをとってもそうだが、10年前と比して、状況は大きく変わりつつある。記憶に新しいところでは、今年の6月26日、アメリカの連邦最高裁判所が同性婚を認める画期的な判断を示した。

「人と人のさまざまな結びつきのなかで、結婚以上に深い結びつきがあろうか。なぜなら、結婚とは、最も崇高な愛、忠誠、献身、自分を犠牲にしてでも守りたい気持ちを含んでおり、家族を抱くことである。婚姻関係を結ぶことで、ふたりの個人は、今までの自分をはるかに超えて、深みのある人間になる。

今回の訴訟の申立人たちは、たとえ死がふたりを分かつとしても、なお途切れない愛情が結婚にはあると、証明している。ゆえに、申立人たちが結婚という営みを軽視しているとするのは、大きな誤解である。彼らの申し立ては、結婚という営みの意味を尊重しているがためであり、だからこそ、自らもそれを成し得んとしている。

申立人たちが望むのは、非難され、孤独のうちに生涯を終えることのないこと。また、古い体制や思想のために社会から排除されることなく、生を全うできること。法の下に、平等なる尊厳を求めているのである」。

この、全文が愛に満ちた美しい裁判所命令により、フェイスブックは虹色に染められ、アメリカは世界で21番目の「同性婚が認められている国」となった。

それだけではない。遡ること3月31日、東京都の渋谷区議会は、同性カップルに対し、結婚に準じる関係と認める「パートナーシップ証明」を発行する全国初の条例案を可決し、4月1日から施行されている。

6月には芸能界で活動する女性2人が結婚式を挙げ、会見をおこなった。

もちろん、こうした動きに反対する人や嫌悪感を覚える人がいないわけではない。それでも、今までなんとなくの差別や偏見で見えにくくなっていたものが、反対意見も含めて表に出てきたことを歓迎する声は多い。

大阪市に目を転じると、淀川区がLGBT支援のさまざまな事業に取り組んでいる。

北区には、なんといっても、「堂山町」がある。

東の新宿2丁目、西の堂山町。

そんなふうに言われるほど、堂山町にはLGBT関連の店が集まっていて、西日本最大のゲイ・タウンを形成している。

特に、堂山町の北側から万歳町にかけて、パークアベニュー堂山やそこから北側に延びる路地を中心としたエリアには、LGBT関連の店が約350店集まっていると言われている。最近では海外から訪れる人も多く、世界でも有数のLGBTの聖地となっている。

口承によると、70年代後半にオープンしたゲイディスコの「ウォーム・ガン」や「パイプライン」、ゲイバーの「ストーク」や「サガ」などが草分け的な存在ではないかと言われている。80年代には、ゲイディスコ「クリストファー」が一世を風靡した。当時、「クリストファー」ほどオシャレな店は大阪のどこを探してもなかったと、多くの人が口をそろえる。

堂山町とその周辺に昔からライブハウスやディスコ、クラブなどの音楽情報発信基地が多数存在するのも、こうしたゲイカルチャーと無縁ではなく、相互に影響を及ぼしあいながら、日本の音楽シーンを牽引してきた側面もある。ドラァグクィーンもそうしたシーンから登場し、その奇抜なファッションやキャラクターは、TVでもおなじみになっている。

『レインボーフェスタ！2015』が毎年開催されているのは、そんな堂山町のお隣にある扇町公園。

「一人ひとりのライフスタイル、LGBTや性的少数者を含むセクシュアリティの多様性を祝うお祭り」だ。

ステージでは、テクノやヒップホップなどゲイカルチャーが深く関与してきた音楽や、LGBTの人たちによるパフォーマンス、高校生による吹奏楽など、カラフルなコンテンツが次々と繰り出される。手話サークルとのコラボがあれば、漫画家によるトークショー、大喜利も。サラダボウルのように、さまざまなパフォーマンスが並立共存するステージは、〝多様性〟そのものを表現しているようにも見える。

象徴的なシーンとして、ステージでは、純白のウェディングドレスに身を包んだ女性2人による、「平等結婚式」がおこなわれた。

「なにを言われるかわからない不安もあったけれども、たくさんの人に祝福していただいて、とてもうれしかった。これを機に、いろんな人に理解してもらえるきっかけとなれば」と、多くの人に祝福されたあとに、晴れやかな笑顔で話してくれた。

人間の〝性〟にはさまざまなありかたがあり、男性の身体、女性の身体という分けかたではなく、身体は男性だけれども心は女性である人、身体は女性だけれども心は男性である人がいる。身体は男性で、心は女性で、男性を好きになる人。身体は男性で、心は女性で、女性を好きになる人。組み合わせはいくらでもある。LGBTは4つの性のありかたの総称だが、実際には、4つのカテゴリーに分けられるものではなく、無限に細分化でき、虹色のようにグラデーションになっている。また、ひとりの人が持つ性も、固定されたものではなくて、変化することもある。

それほどまでに〝性〟は多様であり、つまり、一人ひとりは違うということであり、その〝多様性〟を認め合うということは、あなたと私の顔が違うように、あなたと私の〝性〟は違う、それだけのことで、そこにはマイノリティもマジョリティもなければ、特別も普通もない、ということだ。

「TVのなかだけではなくて、現実に、身近にこれだけの人がいるということも、ここに来ればわかる。そういう場は大切。このかたちを続けていって、次の10年を目指したいです。自分の居場所を探しに来る人や出会いを求めてやって来る人のためにも、開かれた場を維持していきたいと考えています。今年は、地元や行政の協力で地域ぐるみの催しになったのが、とてもうれしいです」。

『レインボーフェスタ！実行委員会』の事務局長である斉藤誠さんは、そう話す。

フェスタに参加している団体は、バラエティに富んでいる。

LGBTの当事者たち、LGBTをめぐるさまざまな課題解決に取り組んでいる団体、賛同する店舗のみならず、今回は、堂山町会も参加している。

「これまでLGBTの人たちと接点を持ってこなかったので、一緒にまちづくりをしていきたいという思いから、参加を決めました。町会単位で参加するケースはあまり例がないらしいのですが、実行委員会もすごく歓迎してくれています」と、堂山町会役員の鈴木慎二さんは、地元の町会が参加する意義を語ってくれた。

非営利団体だけでなく、企業の参加も見られる。LGBT向けの婚礼プランを提供するホテルやプロデュース会社、旅行代理店など。

「IGLTA（LGBTのための国際旅行団体）の年次総会に出席したとき、日本からの参加企業だけがLGBT向けのプランを開発していなかったことにショックを受け、当ホテルでも婚礼プランを開発して、LGBTフレンドリーなホテルであることを発信しています。ニーズは、間違いなくあります」と力強く話すのは、フェスタのオフィシャルパートナーでもあるホテルグランヴィア京都の営業推進室担当室長の池内志帆さん。

電通ダイバーシティ・ラボが2015年におこなった調査『LGBT調査2015』では、約7・6％がLGBT層に該当すると分析され、海外からの観光客も増え続けるなか、同性カップルの宿泊対応や婚礼プランなど、市場は拡大の兆しを見せており、市場規模は5兆9400億円にのぼると算出されている。これはドラッグストア市場と肩を並べる規模だ。

社会のなかで多様性が進行し、そこに需要が生まれつつあると考える意欲的な企業が、適切なサービスを携えて進出する。法整備や社会の意識の変化、そしてビジネス。この両輪で、LGBTを取り巻く環境は少しずつ前進している。

『つひまぶ』今号では、LGBTを軸にさまざまな人にインタビューをおこなった。

NPO団体や法律事務所、ビジネスの現場、飲食店の現場、当事者から支援者まで、視点を変えて、多くの方からお話を聞いた。

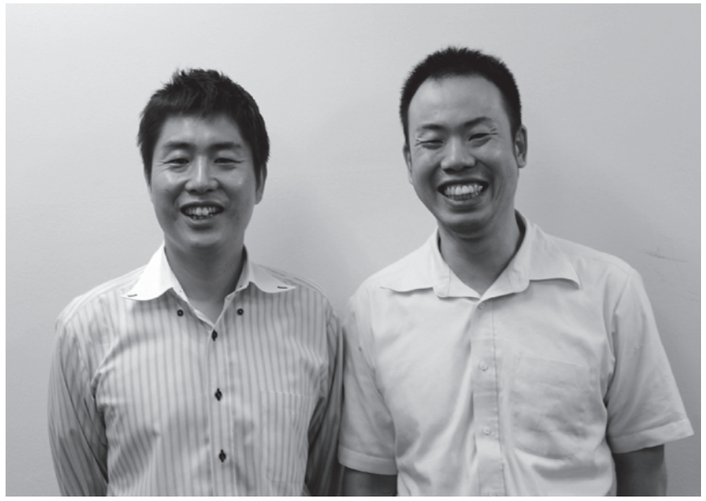
これまであまり知られていなかった課題や現状を数多く教えていただいたのと同時に、マイノリティ性をものともせずにポジティブに生きている人がたくさんいるのだということも、知ることができた。

浮かび上がってきたのは、LGBTの人たちもまた、壮大と卑小のはざまに生きる市井の人であるという、あたりまえのことだ。同時に、多くの人が集まる大都市・キタの魅力のひとつは、それこそ、〝多様性〟ではなかったかということも、「再発見」できるのではないかと思う。（終）

企画・構成・文・写真／浅香保ルイス龍太

LGBTこねた

LGBTのシンボルカラーといえばレインボーカラーだけど、じつは7色じゃなくて6色です。というのも、虹の色数が、日本では7色だけど、国によってばらつきがあって、LGBT先進国のアメリカでは6色。なので、シンボルカラーも6色なのです。



なんもり法律事務所（南和行さん・吉田昌史さん）

北区天神橋2-5-28 千代田第二ビル2F ■http://www.nanmori-law.jp/

LGBTを見るのではなく、その人そのものを見てほしい〝弁護士夫夫〟

南森町に、『なんもり法律事務所』という法律事務所があります。この法律事務所を運営する弁護士の南和行さんと吉田昌史さんは、じつは結婚して3年目の〝夫夫〟です。テレビや雑誌などのマスメディアにたびたび登場されているので、ご存じの人も多いかもしれません。

もっとも、同性愛者であることを公言することで、心のつかえがとれたように見えなくもないのですが、今でも世間から拒絶されるかもしれないといった不安を抱えているそうです。それでも公言し続けるのは、ヘテロセクシュアル（異性愛者）の人と比べて、ゲイやバイセクシュアルの人の自殺未遂のリスクが約6倍も高いという実態に衝撃を受け、「周りの人と自分が違っても幸せに生きていくことができるんだよといった、肯定的なメッセージみたいなものが当事者には必要だ」「肯定的なことも含め、いろいろな情報があふれてくると、LGBTは、そのなかのひとつの属性なだけであって、どこぞかの話になっていくんじゃないか」と思うようになったのだとか。単純に権利を訴えるのではなく、LGBTは多様性のなかのいち属性にすぎないことを当事者や世間に知ってもらい、みんなに優しい社会をつくっていきたいと考えるようになったことがきっかけだそうです。

そんなおふたりに「LGBTについて理解してもらうことが大切なんですね」と、問いかけてみたところ、「わかってもらうというか、特別にLGBTを見るんじゃなくて、個人を見てくださいという話なんですよ」と返されました。多様性のなかのいち属性ばかりに意識が向いてしまいがちだけれども、それ以外のところを見てもらえないことこそが問題の本質であると教えてくれました。

弁護士としての仕事も、LGBTにかかわる案件や相談は多いようです。そんななか、「数年前まではトラブルがらみの相談が多かったけど、最近はお互いの関係について何かできることがありますかといった、前向きな相談が増えてきている気がする」と、少しずつですが世間が変わりはじめてきていると実感されていることを、話してくれました。

そうした前向きな相談があったとき、『任意後見契約』という制度をすすめているそうです。これは、将来、本人が事故や病気などで判断能力が著しく衰えた場合、パートナー間で支え合うことができる制度です。一般に、本人の判断能力が著しく衰えた場合、本人の財産管理や法律行為の権限を後見人に委ねる『成年後見制度』が適用され、配偶者もしくは4親等以内の親族の申し立てにより家庭裁判所が後見人を選任します。しかし、同性カップルのパートナーは法律上の配偶者ではないので、誰を後見人にするのかを申し立てることができず、したがって、パートナーを後見人に選ぶのに困難が生じます。一方、『任意後見契約』なら、本人が自らの意思であらかじめ後見人を選んでおくことができるので、現状は法律上の配偶者になれない同性カップルのパートナーには、オススメです。『任意後見契約』に興味のある人は、ぜひ、弁護士などに相談してみてください。

南さんは、この夏、『同性婚 私たち弁護士夫夫です』という本を出版されました。自身の同性婚のみならず、さまざまな同性愛者の葛藤と困難、そして法律が家族や婚姻をどう捉えているのかについて書かれた本です。また、大阪弁護士会が主催する『LGBTsのための電話相談』（本誌最終ページ参照）にもかかわっておられます。

自分たちができることを自分たちなりにチャレンジしていく姿を見ていると、見ている側もがんばろうという気持ちになります。そして、自分の考えを押しつけるのではなく、自然と受け入れてもらおうとする考えかたに共感を覚えました。そんなおふたりの今後のさらなるご活躍に期待したいです。（Ｔａ―ｙａｎｇ）

LGBTこねた

ゲイバーやビアンバーなどは一般に、ヘテロ（異性愛者）の入店を断っているところも多いけれども、一方で、誰でもウェルカムなミックスバーも数多く存在する。スナック形式で、チャージ（セット料金）は平均で1，500円前後。そう、安いんです☆

特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ（小林和香さん）

淀川区十三東2-6-7 徳島ビル2F ダイバーシティラボ大阪 ■http://www.nijiirodiversity.jp

トランスジェンダーの約70%が求職時に困難を感じている

テクノロジーの活用を通じて、さまざまな社会問題の解決にチャレンジする非営利団体を支援する『Ｇｏｏｇｌｅインパクトチャレンジ２０１５』のファイナリストに選出され、２５００万円の助成金を得たことで話題となった『虹色ダイバーシティ』。受賞理由ともなった、ＬＧＢＴフレンドリーな店舗や事業所の情報を地図上で表示するアプリ「ＬＧＢＴ教育＆ＬＧＢＴフレンドリー・マップ＆情報配信アプリ」の開発に力を入れるとともに、ＬＧＢＴと職場をめぐる問題の解決に取り組んでいる団体です。実際に、どのようなことに直面し、どのようなことをおこなっているのか、スタッフの小林和香さんにお話をうかがいました。

衝撃的だったのは、国際基督教大学ジェンダー研究センターと共同でおこなった調査『ＬＧＢＴに関する職場環境アンケート２０１５』の結果です。じつに、「約70％のトランスジェンダーが求職時に困難を感じている」という結果が出たとのこと。

そもそも、履歴書の性別欄が男女に分かれており、どちらかに丸をつけなければならない現状があります。さらには、職場においても、制服、更衣室、トイレ…。

「トイレに入りづらいことが原因とは特定できないですが、排泄障がいの理由などにもつながっているのではないかと調査を続けています」とのことから、現実に、実害があるということです。

就労問題については、じつは、低学歴の問題もあるようです。

男女に分かれた制服も、学校をドロップアウトしてしまう要因のひとつになっています。そもそも、さまざまな性のありようや同性愛のことを学校で学ぶ機会がないために、ＬＧＢＴの子どもたちには安心して過ごせる居場所がほとんどありません。そうしたことから、目指す学歴を得ることができず、結果、正規雇用に結びつきにくい、という現実があるようです。

企業だけでなく、行政とも一緒になってこの問題に取り組んでいます。「行政と一緒になって取り組むと、たとえば、すべての学校にポスターを貼ってもらうことができます。この突破力はすごいです」と、その意義を語ります。

「お孫さんと一緒に参加された方もいました」「小学生が自由研究の題材にＬＧＢＴを取り上げてくれました」など、行政と組んでおこなう現場では、こうしたうれしい事例がいくつもあるのだとか。

淀川区ＬＧＢＴ支援事業で運営しているコミュニティスペースには、年間３００人以上の人が足を運んでいます。

職場や社会に多様な人材がいることは、強みであり豊かさであるに違いない。ここで生き生きと働く小林さんを拝見していて、そう感じざるを得ませんでした。（ルイス）

社会に出てからも、当事者の70％の人が「差別的言動を見聞きしています」という結果も出ています。オカマ、ホモ、結婚しないの？　子どもはつくらないの？　といった問いかけなど。

言葉の問題も、すでにセクハラとして認定されているものから無意識のものまで、さまざまです。

小林さん自身も、「以前の職場で同性のパートナーがいることをカミングアウトしたところ、職場にバラされてしまって、突発性難聴にもなりました。あまりにもつらく、その職場を辞めざるを得ませんでした」という過去をお持ちです。

そうした問題を解決するために、虹色ダイバーシティでは、講演活動やコンサルティング活動を積極的におこなっています。

「たとえば、講演を聞きに来られた企業の方が、社内でＬＧＢＴ研修について報告する。すると、ＬＧＢＴについて相談しやすくなり、現場の課題が見えるようになります」。講演をきっかけに職場が改善された例は、いくつもあるそうです。

LGBTこねた　ドラァグクィーンのアイメイクはつけまつげばかりが注目されているけれども、まつげに負けない極太アイラインは、「呉竹」の筆ペンで描かれているのです。マネするときは「染料」ではなく「顔料」を選びましょう。

ゲイコミュニティスペース&情報ステーション
dista
■http://www.dista.be/

ゲイ、バイセクシュアル男性の性的健康の増進を目指して

堂山町にある、誰もが「ふらっと気軽に立ち寄れる」ゲイのコミュニティスペースであり、ゲイやバイセクシュアルの男性のセクシュアルヘルス（性的健康）の情報ステーションでもある、distaを。今回、distaを運営しているMASH大阪のアウトリーチコーディネーターである、マチトシオさんにお話をうかがいました。

日本では、現在、STI（セックスによって感染する性感染症）の感染者が増えています。STIには、HIV（AIDSの原因となるウイルス）感染症、梅毒、B型肝炎、クラミジアなどがあります。HIVは誰でも感染するウイルスですが、なかでも、男性同性間のセックスによる感染の多さは目立っています。感染の背景には、アナルセックスをすること（直腸粘膜は傷つきやすいから）や、セクシュアルネットワークを介した人と人とのつながりが密になりやすいことが挙げられます。また、学校の性教育の場でも「コンドームは避妊具」としてのみ教えられるため、「性感染症の予防具でもある」という大切な情報が抜け落ち、コンドームを使うことへの意識が薄くなるといった、予防情報が届きにくいことが挙げられます。

MASH大阪は、大阪地区のゲイやバイセクシュアル男性に対し、HIV／STI感染の予防を促し、セーファーセックス（安全なセックス）やHIVに関する正しい知識をゲイコミュニティに向け発信し、セクシュアルヘルスを増進させることを目的として活動しています。

たとえば、ネットで情報を収集するよりも紙媒体で情報を入手することが多い中高年のゲイの人たちに向けて、フリーペーパー「南界堂通信」を発行しています。「老後の来ないゲイはない！」などゲイの老後についての特集が組まれる一方で、その裏面には、HIV検査の情報が掲載されています。また、若い人向けには、「若い人はあまり文字を読まないので、地図付きの飲食店情報と一緒にHIVの検査情報を載せたり、若い人のあいだで有名な人をパンフレットやリーフレットの表紙に起用したり」と、世代の特徴に沿ってデザインされたモノからセーファーセックスやHIVに関する正しい情報が伝わるよう、配慮されています。

また、distaでは、中国茶会や外国語講座、ワークショップ、アートイベントなど、さまざまなイベントが開催されています。一見、HIVとは関係なさそうだけれど、参加者同士の交流が生まれたり、会話のなかにHIV情報を絡めたりすることで、情報の共有をはかっています。専門家による匿名での対面相談会も開催したりしています。distaのこうした取り組みは、公益財団法人エイズ予防財団の委託事業でもあるのです。

人と人とがつながり、有機的なネットワークをつくっていくことの手伝いをすることで、HIV／AIDSや性感染症の正しい情報が伝わり、ひろがっていくことをdistaは目指しています。（穂）

LGBTと女性のためのリソースセンター
QWRC（くぉーく）
北区西天満4-5-5 マーキス梅田707号室
■http://qwrc.jimdo.com/

セクシュアリティを自由に表現できる社会の実現を

QWRCは、2003年にオープンした、LGBTなどの多様な性を生きる人々のためのリソースセンターです。当事者のためのイベントや電話相談だけでなく、学校や行政、企業などに向けての啓発事業にも取り組んでいます。今回は、理事のひとりであるコジ（近藤由香）さんに、具体的にどんな活動をされているのかをお聞きしました。

すると、じつにキメの細かい、考え抜かれた事業が展開されていることがわかりました。その一端を、紹介します。

たとえば、「QWRCデー&ナイト」は、誰でも参加できるお茶会で、仲間の力で生きづらさを解決する場として用意されています。通常はこれだけでじゅうぶんだと想像しがちです。でも、QWRCでは、それ以外にも、23歳以下のLGBT（かもしれないと感じている人）向けのおしゃべり会「カラフル」が用意されています。なぜ23歳以下というカテゴリーが設定されているのかというと、学校内でサバイブするためにという、そのカテゴリー特有の課題を抱えているケースが多いからです。さらに、「英会話教室QWEEN」。英会話とLGBTにどんな関係が？と、一見、思います。

しかし、詳しくお聞きすると、ジェンダーを話題にして英会話を学ぶにあたって、ストレスを抱えることなく学べるよう、こうした英会話教室が用意されているのだそうです。そのようなキメの細かさに配慮して、当事者向けのさまざまな事業が展開されているのは、外側にいるとまったく想像できませんでした。このキメの細かさは、それだけさまざまな場面でLGBTの人たちが生きづらさを感じている、ということでもあります。

「メンヘル」は、メンタル面に悩みがある人のための「言いっぱなし聞きっぱなし」のミーティングです。そうすることで、批判されない、質問されない、評価されない環境のなかで、自分の話ができます。また、SST（ソーシャルスキルトレーニング）の手法を導入して、コミュニケーション能力を高める場としての役割も担っています。医療やカウンセラーには、自分のセクシュアリティのことを話せないケースが多く、そんな人たちが気軽に話せる場として、機能しています。また、子どもと生活している人や、子どもと生活したい人、そんな人を応援する人のための「こどもとおとなお茶会」もあります。

活動は当事者向けのものだけにとどまりません。医療や福祉、介護など、LGBTがまだまだ浸透しておらず、適切な処遇を受けられない可能性の高い分野に向けて、啓発のキャンペーンをおこなっています。

興味深いのは、出前講座をきっかけとして生まれた、在日コリアンとセクシュアルマイノリティの相互交流です。ダブル、トリプルのマイノリティ性を持つ当事者に対して、どのようなサポートが必要なのかを考えるのみならず、それぞれのマイノリティが持つ困難と特徴を相互に学び合うものへと進化していること。現場はどんどんつながっているんだ、と、なんだか自分までが勇気づけられる事例でした。（ルイス）

LGBTのためのグローバル・トラベル・ネットワーク「IGLTA」加盟ホテル
ホテル近畿
北区堂山町17-8 ■http://hotelkinki.com/jp/

ゲイタウンは堂山の柱のひとつ。それを生かしたホテル戦略を

堂山町にあるホテル近畿。

1974年（昭和49年）から営業を続ける老舗のビジネスホテルだ。ゲイタウンのど真ん中にあり、阪急東中通商店街に面した立地条件から、LGBT、なかでもゲイの人たちによく利用されている。

「いち時期はゲイの方がほとんどということもあった」と、オーナーの鈴木慎二さんは話す。

堂山町周辺では、70年代に有名なゲイバーがオープンしたのをきっかけに、次々にそういったお店が集まってきたようだ。80年代には、ゲイバー約350店舗がひしめき合うくらいにまで成長するまちになったのだとか。

鈴木さんは、大学時代に人権サークルに入っていた関係もあり、差別のないホテルを目指すという意識を持っておられた。そのために、ホテル内をいち早くバリアフリー化したり、知的障がい者をスタッフに採用するなど、ユニバーサルな取り組みを積極的に進めてきた。しかし、気付くと、ゲイの人たちとは距離を置いてしまっていた。

15年ほど前に放置自転車の扱いでトラブルになったことがある。ゲイバーで働いている人たちが、出勤のために乗ってきた自転車をホテルの敷地内に放置する。注意すると、言い争いになった。また、一部の人だけだが、部屋の使いかたが乱暴な場合があり、大変な場面に何度も遭遇してきた。そんな体験から、ゲイの人たちに対しては、どうしても壁をつくってしまっていた。

ただ、海外からやって来るゲイのお客さんと接すると、とてもスマートで、穏やかで、感動することすらあったのだとか。「もしかすると、自分のなかに偏見があったのではないか？」。そうしたことをきっかけに、意識が変わっていった。

現在では、ホテル側の対応などが評価され、また、IGLTA（LGBTのための国際旅行団体）に加盟したこともあり、ゲイのお客さんが増加した。現在、ホテルの稼働率は98％を維持しており、飛び込みのお客さんを断らなければならないほど。

「最近は東南アジア、特にタイからのゲイの方が多いですね」。

じつは今、日本国内はもとより、世界各地からLGBTの旅行客がやって来ているのだ。LGBTツーリズムという新しい市場ができつつあり、規模はどんどん膨らんでいる。さらに、そのことによって、新たな需要も生まれる。

「堂山はゲイタウンであると同時に、ライブハウスなどの音楽発信基地や飲食店がまちの柱だと思う。この魅力を高めていくことが必要」。鈴木さんは、地域の特色を引き出すことが重要だと考えておられる。そこで昨年、堂山町会として、レインボーパレードに初めて参加した。町会がLGBTのイベントに参加するのはかなり珍しいが、LGBTツーリズムによる観光客の増加をまち全体で受け入れると同時に、まちの魅力向上につなげていこうという試みでもある。

「まちが変われば、それに応じてホテルも変えていきます」。地域とともに歩むホテルは、どこまでも革新的だ。（なみはやノーツ）

LGBTこねた　舞台メイク用の化粧品で有名な「三善」は、茶屋町にあります。梅田ロフトや梅田芸術劇場のご近所。そのほかに、ドラァグクィーンに愛される化粧品ブランドは「M·A·C」と「NARS」。決め手はその発色の良さ！

ドラァグクィーン＆ゴーゴーボーイに聞くお仕事術（メイクとか筋肉とか）

文／毬　構成／浅香保ルイス龍太

tossy

「ドラァグクィーンのメイクは舞台メイクだから、女の子のお化粧とは違うのよ！！！！」。この世界未体験の私にドラァグクィーン・メイクの基本をイチから力説してくれたtossyさん。「スポットライトを浴びると顔が平坦に見えちゃうから、立体的に見えるようにメイクしてるの。だから、3Dメイクよ。飛び出すメイク！」。飛び出すメイクって（笑）そいつは、肌で決まる。まず、ピンクやグリーン、グレーのコントロールカラーを使い分けて、肌の下地をつくる。その上に色混ざりのいいドーランを塗って肌色を足したら、粉を5分間たたいてベースメイクが完成。ベビーパウダーでもタイハクでもなんでもいいけど、5分間たたき続けるのがポイント。5分もたたくと、汗をかいても朝までメイクが落ちないとか。粉にそんな効果があったとは！　あとは好きなように顔をつくるだけ。「女の子ももっと自由にメイクしたらいいのにね」そう言われてみると、ドラァグさんにはひとりとして同じメイクをしている人がいない。

tossyさんのメイクのお手本はアンジェリーナ・ジョリーや海外のAV女優。「下品でいいのよ～」だってさ。こだわりはなんといっても眉。絶対ペンシルタイプで、毎回削ってキリッとしたシャープな線を描く。なんと、ひと筆描き！　でも、そんなに気合いを入れてつくった顔なのに、落とすときは「市販のクレンジングシートで雑に落とす！　一気に男に戻るの！」。なんともったいない！　「クレンジングを切らしたら食器洗い用洗剤でも大丈夫！」イヤイヤイヤイヤそれはダメっしょ（笑）tossyさん、それはヤバいって！

from cafe NEWYORK NEWYORK
北区堂山町 10-3 東通りビルディング 2F
19:00～翌 5:00　無休　http://newyork2.digi2.jp/

MARIA

「マリアみたいにもともとがキレイだと、そんなにメイクしなくていいんだけど」とベビーヴァギーちゃんが語る美人さんのマリアさん。

肌のキレイさは、努力ではなく遺伝なんですと。持って生まれた才能なんですと。肌荒れ知らずで、メイク落としだけしたら、洗顔せっけんも使わないんですと。マジか？　私なんて、どんだけの努力を……。

じゃ、メイクは？

「こだわりとか、ないよ」とバッサリ。「参考にしている人もいないし、ヴァギーちゃんみたいなテーマもないしねぇ」…とりつくシマがない（笑）週に4～5日は仕事でメイクをしているので、メイクをすることに対して特別感がないのだそうだ。それって、女子がメイクするのと同じ感覚なんじゃないだろうか。思わぬところで共感してしまった。

使っているファンデーションはもちろん舞台用。宝塚の人とか、バレエの発表会のときなんかに使う、特別なファンデ。「髪が隠せないからねー。女子が使ってるファンデではムリ！」。「眉つぶしをしなくていいように、眉を半分残してる」。そんなこんなで、あのメイクの所要時間が15分。15分で完成だと？？　おい、私なんて毎朝毎朝毎朝……（涙）

「ちょっと失敗しても気にしない。間違ってるかどうかなんて、お客さんはわからないでしょ。毎日会うわけじゃないんだから、そのとき会った私の姿が正解なわけ」ですと。

最近、まちなかで見る女装してる人、いわゆる女装子とドラァグクィーンって、全然違って見えるけどどうしてなの？　なにが違うの？

プロとアマの違い？？

「あれ、楽しそうよね。女装して外を歩くだけで楽しいってかんじよね」。

「やってる人はね、化粧品とか衣装とかって結構お金がかかるから、40代の人とかが多いのよ。でね、男って歳をとると髪が濃くなるの。でも女子の化粧品って薄いから髪が残るのよ」。それって、メイクすることで余計に男っぽさが目立っちゃうってこと。

「あと、着てみたいんだろうけど、ミニスカートも多いよね。ごつい足がむき出しになってるの、見る見る！　そう言われると、ドラァグクィーンのミニスカートって見たことないかも！　女子に混じりたいのに、むしろ浮いてしまうのは、メイクと衣装で男が際立つからなのかー。なるほどなるほど。

「ドラァグクィーンのメイクで大切なのは、男を隠すこと。衣装選びもおんなじ」。NBAのユニフォームを艶っぽく着こなして、私にはとてもマネできない姿で語ってくれたマリアさんなのだった。オンナ、だ。

from do with cafe
北区兎我野町 9-23 聚楽ビル B1F
月 - 木 /18:00～翌 3:00　金・土・祝前日／ 18:00～翌 5:00
日・祝 /18:00～0:00
不定休
tel./06-6312-1778

BABY VAGGY

いつもいつもいつも「それどこで買ったの？」と聞かずにいられない、ヘンテコリンな服をオシャレに着こなしてるベビーヴァギーちゃん。2次元コミックを地で行くこの人の攻めっぷりは、いつもいつも、ハンパない。もちろん、メイクもハンパない仁義ない掟破りの2次元コミック。

ベースメイクは、ドーランじゃなくてパンケーキ。水性と油性を混ぜたもので、ドーランほど立体感は出ないけど、パウダーが要らない。火で溶かして使う「眉つぶし」ではなく、スピリットガムで眉を消しているのは、ヴァギーちゃん流。アイラインはルボタン。「ルボタンのはメイク落としのときにテープみたいにパキッととれるのよ」って、ちょっと想像がつかないけど？　どういう状態なの？？　スーパー・ボリューミーなつけまつげは「上に3枚、下に2枚」の重ねづけ！　すごっ。メイク落としはドラッグストアで買えるクレンジングオイルでじゅうぶん！「でも1回じゃ落ちないわよ」オイルの2回使いって、さすがに経験ないかもしれない。そんなヴァギーちゃんオススメ！の最近よかったのは、レトロな紫の瓶が目印の「蜂乳クリーム石鹸」。そのまま使うとクレンジングで、水で溶いて泡立てると洗顔になるって、めっちゃ便利よね！

てももちもち素肌に違いないヴァギーちゃん。肌荒れしないの？「毛を剃らないことかしら。もともと毛は薄いのよ」。「日焼けなんてしないわよ。しちゃダメよ」。「もし日焼けしたらパックは絶対よ」。やっぱり日焼けは大敵なんだ。「肌がカサカサする日は、青缶のニベアね。青缶ニベアは偉大よね！　でも、お手入れがそれだけだなんてずるいなぁ。

で、その美脚はどーしたことよ？「休みの日は半径1メートル以内しか歩かないことね！」。

メイクもさることながら、どう見

from do with cafe
北区兎我野町 9-23 聚楽ビル B1F
月 - 木 /18:00～翌 3:00　金・土・祝前日／ 18:00 ～翌 5:00
日・祝 /18:00～0:00　不定休
tel./06-6312-1778

IZZA & MASA

IZZAさんはドミニカ出身。13歳のときにテレビでプロレスを見て、筋肉に目覚めたとか。プロレスラーが胸筋を動かしているのを見て、「僕も自分の胸を動かせるようになりたいネ！　あんな身体になりたいネ！」と。胸筋鍛えたら、次は二の腕。「ピチピチのTシャツを着てカッコよく見せたかったネ」と、自慢の二の腕を見せつける夜なのだった。

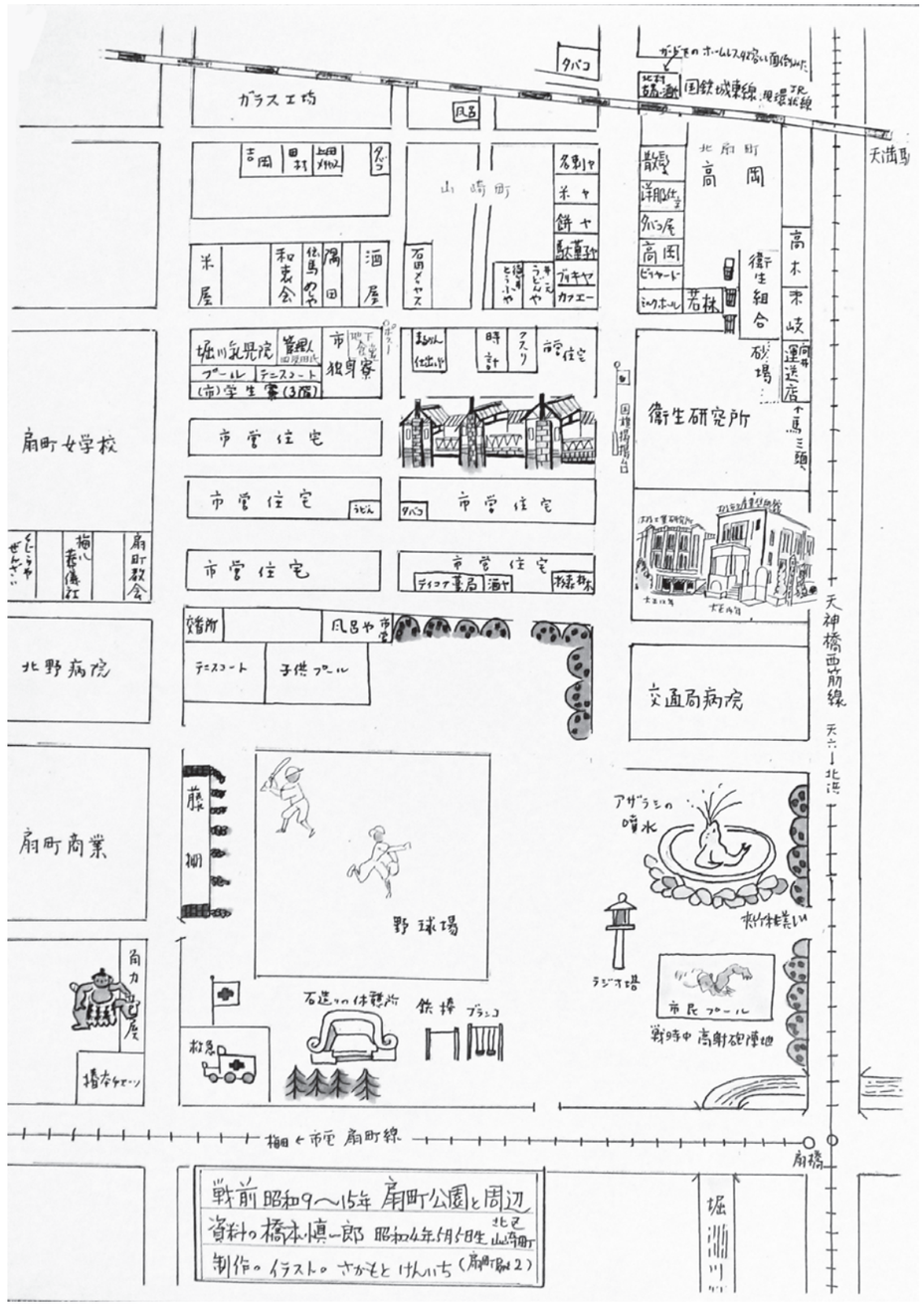
MASAさんは、もっぱらジムで鍛える派。「胸の日とか足の日とか背中の日とか。日によって鍛えるところを変えてますよ」。身体を鍛えることに完成はないので、目指している姿はない。意外と（失礼！）理論派で、「スクワット1回は腹筋100回に相当！」とか、「代謝が上がるのでダイエットにも効果的！」とか、いろいろと勉強になる。身体を鍛え出すと、ハマるらしい。「運動すると気持ちが前向きになります！　僕は一生続けますよ！」と、夜の人らしからぬお答えが。このあと話はサプリに流れ、シジミの効用に流れ、健康オタクっぷりを存分に披露してもらった（笑）プロ意識のなせる技か？

ゴーゴーのこともちゃんと聞いてみた。「ボディビルダーは筋肉の美しさを追求しているけど、ゴーゴーはエロさだと思いますよ。服を着たときの見えかたも大切。Tシャツの腕まわりはピタッとフィットしていないと僕はダメです！」。ゴーゴーボーイの美学を垣間見た夜だった。

from GRANDSLAM
北区堂山町 6-14 第 2 松栄会館 1F
21:00 ～ 翌 5:00　無休
tel./06-6362-8077

坂本健一さんが描く、戦前の扇町公園とその周辺

「つひまぶ」創刊号に登場いただいた青空書房の坂本健一さんが、戦前の扇町公園周辺の様子をイラストマップにまとめられました。「もう、僕しか覚えている人はいないだろうから」と細部まで描きこまれたかつてのまちの姿は、今や坂本さんだけが描くことのできる、このまちの〝古地図〟です。旧仮名遣いで書かれた解説文とともに、さあ、あなたもタイムトリップしませう。



江戸時代、ここは空地でゴミ捨て場だったそうな。そのゴミの山を焼いたら大鼈（いたち）が飛びだしたと伝説にある。明治になってから監獄。大正12年まで、脚に鉄球鉛をつけられた罪人が天神橋筋を通っていたそうであるが、今在る我々は見た経験がないので想像するだけ。扇町と云うのは、末広がりに幸せを呼ぶことから付けられた町名だそうな。真ん中に公式プールがあって、戦後古橋、橋爪選手が水泳世界記録を樹立し、心身共に疲弊していた市民達に、明るい希望の灯を点してくれた。

中之島公園ほど歴史を持たずとも地域市民唯一の憩いと安らぎのこの空間こそ、暗雲の中の小さな青空でもあった。正に庶民の町の天窓である。

この図は、軍国日本の重苦しい圧迫感を物ともしない大阪市民の心の拠り処、緑きらめく健康の拠点を描いたものである。

早朝、ラジオ体操の為人々は集い
昼、野球で元気一杯駆ける
若さの息吹き、躍動が光る
大阪の若々しい一つの心臓がここにあり
青春と云う血液を育んでいた

JRは国鉄、今と違って地べたを走り、梅田から、先づ鶴橋、そして天王寺までデゴイチなどが煙を吐いて走った。市電は国鉄をまたいで走り、天神橋五丁目から坂を上り、扇町で下る。この国鉄をまたぐ坂は十三から南浜にもあった。長いガードの下にはどて焼屋か立飲みおでん屋が店を出していた。いつもほの暗く、ほっとするおやじたちの隠れスポットであった。東に抜けると有名な牛肉店が栄えていた。

十丁目筋は戦前からキタ唯一の繁華街で映画館が4つ、演劇場と賑い、都館（演劇場）にはエンタツ・アチャコも来た。

今、北区役所と8チャンネルテレビのある処には衛生試験所、工業試験所、公園北入口に交通局病院があった。扇町公園の中央に石造りの休憩所があった。そして中央にスタンドがあり、それが後に公式プールになった。公園に小さなテニスコート、それに接して園内に食い入るように市営の質屋があった。公園に面して北側には扇町族と呼ばれるインテリ層が住んでいて官吏、教職の方が官舎に居た。赤い煉瓦の外壁、青い屋根瓦が、通りを隔て南隣りのお地蔵様長屋を睥睨していた。扇町族は、お金も知識も豊かなエリート層であった。北野病院が今の様に立派でなかった頃である。堀川乳児院と云う市の施設があった。乳幼児の健康診断と働きに行く婦人達の帰りまで預かる大阪市の優しい施設だった。一定の収入に満たない家庭のための低額の産院すらあった。今の中崎町「民団」の向かいである。福祉という言葉が麗々しく取扱われている現状に比して、貧しかった日本が心をこめて次代の育成に日常的に取りくんでいた。

「命の母」の工場の黒塀がずっと続いていて井路川と呼ばれる溝ほどの川が道路を横切って、淀川から堀川につながり、中之島に続いていた。長柄淀川堤みに染料工場があって高い物干しに、長い晒しの布が幾条にも旗幟りの様に翻っていて、その場はラッポと呼ばれる赤蜻蛉も群れなして飛び、夏には木立ちに蝉がかしましかった。

戦争のあと、廃墟となっていた大阪も処々に旧に戻って来たが、失われた風情は戻らず、きらびやかなスマホ文化が取りかわった。

以上、旧地図に付し老人の感傷である。

キタのええもん
キタの手みやげ

今も昔も庶民の味 出入橋きんつば

昔、大阪駅に出入りする船が行き来するところにある橋なので出入橋。今は高速道路があるだけで川はない。「出入橋きんつば屋」の屋号が、川があったことを物語る。周りの風景は変わったけれど、ここだけは昔のまま。

店先のガラスの向こうで、四角い餡子に溶いたメリケン粉をつけ、鉄板に乗せていくリズミカルな動きは、焼いている人が変わっても同じリズムを刻んでいる。

小さい頃、おばあちゃんに連れられよく買いにいったきんつばは、小さい手には温かくて大きく感じた。大人になって訪れたお店には、相変わらず、おばちゃんの「いくつしましょ」という言葉と笑顔があった。変わったのは私が大人になって、おばちゃんがおばあちゃんになったこと。

店内で食べていると、「お茶、まだありますか？」と声をかけて気づかってくれる。梅田のオフィス街のお店で座っていて、ほっこり居心地のいい、温かい空気を感じるところ。

「私が嫁に来た頃はなぁ、前に川があってな、道も狭かった。こんなんと違うで」と、飾り気のない言葉が心地よく聞こえる。

――後継ぎがなくて廃業するお店があるなかで、残っているのはすごいですね。

「親の後ろ姿見てたから継いでくれたんやろうね。ただ、それだけ……」

おばちゃんのうれしそうな笑顔が印象的だった。

――いつからはじめはったんですか？

「昭和5年創業。じいさん、親父、自分で三代目やね」

――なぜ、ここできんつばをはじめはったんですか？

「さあ、じいさんに聞いてないからわからんわ」いかにも職人さんらしい口数の少ない、愛想のない言いかた。「もうすぐ餡子が炊けるから、そしたら話されへんから」と言いつつ座って答えてくれた、やさしい三代目さん。

「夕方に次の日の餡子を炊いて、型に入れて、ひと晩冷やして、朝、切って使いますねん」

――ほかへの出店は考えないんですか？

「自分でつくれる量は決まってる。ほかの人につくらせたら味が変わるから、自分でできることしかしない。よそに運ぶにも防腐剤もなにも入ってないから、日持ちがしない。皮もメリケン粉を水で溶いてるだけ、じいさんの代からずっとこのやりかた、全部自分でつくってる」

身の丈に合ったきっちりした商売、はっきりと自信を持って言い切る、昔の大阪商人さんを見たような気がする。

話しているあいだも、箱で買っていく人や食べながら帰っていく人が、次々に来る。

きんつばは、上品な和菓子というより庶民の和菓子。それでいて、上品な甘さの餡子ともちもちとした外の皮がフィットしてる。かたちも、歩きながら食べるのにちょうどいい！

ええカッコしない、大阪らしいお店。こういうお店がいつまでも残ってほしい。

大阪らしい、ええカッコしない手みやげとして、出入橋きんつば屋の「きんつば」が、いち押し！もし、食べきれないときは、冷凍保存可能。自然解凍して食べるといい、とお店で教えてもらった。（ミリちゃん）

「出入橋きんつば屋」
【所在地】大阪市北区堂島 3-4-10
【tel】06-6451-3819（代表）
【営業時間】
月～金／10:00～19:00
土　／10:00～18:00
【定休日】日・祝

神
駅探 えきたん
阪神電車 梅田駅 Hanshindensha Umeda

車止めの天使たち

突然ですが、私、かわいいものが大好きです。マスコットや着ぐるみなどのイラストや立体物が特に。それらを関知するセンサーがあるようで、ポスターや看板などに描かれているかわいいものを見つけては、ひとりほくそ笑んでいます。変な趣味ですね。すみません。

用事で阪神梅田駅を使ったとき、そのセンサーが反応して見つけてしまったのです。車止めにいる天使を。

阪神梅田駅。4つある線路の車止めのところにいる、キュートで愛らしい表情の天使たち。よく見ると、フラワースタンドの役目をしているようで、貝をふたりで持ち上げて、さりげなくおすましているようなポーズ。貝のなかには観葉植物が植えられた、すてきな立体物です。車止めごとにふたつずつ、計8基あり、とっても目立つ位置にあります。ありますが、私の周りの人に聞いても、そんなのあったっけ？　と言われます。かわいいのに。

阪神電車というと、タイガースと下町を走る庶民的なイメージを持っていましたが、こんな高貴な天使がいたのには、少し驚きです。どうしてこんなところにいるのか、その理由が知りたいじゃないですか。なので、阪神電車さんに聞いてみました。すると、返ってきた答えは「よくわからない」。……。

わかっているのは、1989年（平成元年）に設置したようであるということ。きっと、26年も前の資料など残っていないのでしょう。「おそらく既製品ではないか」くらいしかわかりませんでした。

でも、ちゃんと収穫もありました。阪神電車さんにお話をうかがったなかで一番ときめいたのは、設置工事のこと。この天使たちは、梅田まで工事用貨車でやって来たんですって。天使なのに、飛ばずに列車に乗ってきたとか、なんともほほえましい。

そうそう、天使が支えている観葉植物はあの、甲子園球場のグラウンドキーパーをしている、グループ会社の阪神園芸さんがメンテナンスをおこなっているそうです。その方々が週に一度、水やりなどをおこない、管理をしているとのこと。たくさんの人が行き交う場所なので、光沢を保つために、ホコリがつかないよう気づかっているようです。プロです、プロの仕事！

阪神梅田駅は、阪神百貨店の建て替えに合わせて改装が予定されています。気になるのは、この天使たちは、改装後も活躍できるのかどうか？　改装で処分されたりしないんだろうかとちょっと心配です。ぜひ、末永く活躍してもらいたいなーと思っています。

（なみはやノーツ）

北区 銅像巡礼

（株）オートバックスセブン 住野敏郎氏

「新出入橋東」の標識がある交差点、気付かずに通り過ぎてしまうほど控えめに、その銅像はあります。近づいてみると、大きな文字で「住野敏郎」と氏の名前、そして業績が、オートバックスの創業者であることとともに、短い文章で書かれています。

「この地に、日本で初めてのカー用品総合専門店という業態を生み出し、フランチャイズシステムで全国に拡大。そして同志経営者の心に火を付け、結果、カー用品業界の発展に力を尽くした男であり　又、オートバックスグループの創始者である。

住野敏郎
没　平成十三年三月九日　八十歳」

銅像の周りは掃除が行き届いていて、いつ通りかかってもきれいに整備されています。創業者の像が屋外にあるのは珍しく、とても気になっていたので、直接オートバックスさんにメールで聞いてみました。すると、とても熱い熱いメールが返ってきました！

この銅像、「創業者、住野敏郎の偉業を称え、2002年（平成14年）3月9日の一周忌に、発祥の地である大阪出入橋（北区堂島）に建立」されたのだとか。強い信念を持ち合わせていた住野敏郎氏にとって、発祥の地である出入橋は、思い入れが強く、かつ一番落ち着く場所だったそうです。その所縁の地で、これからのカーライフ文化の発展を見守ってもらいたい、と。亡くなったあとも見守っていてほしいと社員に切望される経営者とは、どんな人だったのでしょう？

住野氏は1920年（大正9年）申年生まれ。自分自身を「〝終始一貫して攻撃的性格であり、好き嫌いがはっきりしている〟〝何事も一途に構え、あまり妥協を好まず〟」と評していたとのことで、よほど激しい方だったご様子。オートバックスを創始した責任、使命感にあふれ、「個性豊かなカーライフ文化の創造を通じ、また、お客さまに感動される仕事を通じて、広く社会に貢献すること」を創業の精神とされていたそうです。「〝仕事こそ人間形成〟のカリスマ経営者ではありましたが、深い愛情あふれる方でした」。うかがう言葉のひとつひとつから、住野氏に対する深い思いと敬意が伝わってきます。

胸像ではなく全身像になったのは、住野氏の象徴的な姿を残したかったから。「トレードマークでもあったオリジナルの〝超一体化ネクタイ〟〝オレンジブレザー〟を着用しています。超一体化ネクタイって何？（笑）左手人差し指を立てた〝ナンバーワンのポーズ〟もまた、氏のトレードマーク。コメントをしたり、社員に檄を飛ばしたりするときは、常にこのポーズだったそうです。

オートバックスの方々にとっては、住野氏が経営理念を力強く唱え、檄を飛ばしている姿が、今もそこにあるようです。「常に一番、ナンバーワン経営を唱え、商売の原点である〝萬事勝意〟〝先制攻撃〟〝強存強栄〟〝創業の精神〟が宿り、歴史を顧み、学びの場そして新しい発想が生まれる場」なのだそうです。

きれいに整備されている銅像は、3ヶ月に一度、社員やビル清掃の方の手によって、水洗いと乾拭き、専用の布で丁寧に磨かれているそうです。創業の精神は、脈々と受け継がれているようです。（球）

北区 モノづくり最前線

――第四回目――

豊崎から品質の高い「マーク」を製造・販売
（株）日本マーク製造所

今回は、会社前や入口に掲げられている社名看板や、機械や設備に貼ってあり、使用方法や製造会社、製造番号などが記載されている銘板、スーツの襟につける徽章（バッヂ）などの製造販売をする、豊崎六丁目の（株）日本マーク製造所・松田泰英さんにお話をうかがいました。

昭和33年に天五中崎通り西側入口の向かい側で創業。松田さんが小学校に入学する前までは周辺にはあばら屋がまだ残っているような場所で、毎日会社前の道路にろう石で絵を描いて遊んでいたというほど、のどかな場所だったそうです。

昭和52年に道路拡張で創業地から立ち退き、豊崎神社のすぐ南側、豊崎六丁目に本社を移転。その後、本庄西にあった工場も同じく道路拡張のため本社の2階に移転し、現在に至ります。

松田さんは約20年前に会社を継ぐまで、コンピュータソフトをつくる会社に勤めていたそうです。そこでは失敗してもバックアップがあれば簡単にデータを戻すことができて、失うのは費やした時間だけでした。しかし、今の仕事はほとんどがオーダーメイドのため、失敗すると最初からやり直しになるうえ、原版の再作成から材料の調達など、失うのは時間だけではないことを痛感したそうです。

主に金属加工製品を製造していますが、爪ほどの大きさの徽章から、長さが1mを超える看板まで加工するうえ、金属素材も多種あるため、加工の難しさだけでなく、例えば仕上げのクリヤー塗装時に謎の化学反応が発生したり、難しさの原因は多岐にわたるのだそう。

機械に貼りつける銘板を製作中。あらかじめマスキングしてあるアルミ（板）に薬品をかけると、アルミ（板）の表面が腐食し、凹凸ができて、文字等が浮かびあがる。

そのような難しい作業も、モノづくりの原点のひとつである『気づき』による工程の改善や、絶え間ないノウハウの蓄積や、自分自身が熟練することで、乗り越えていきます。そうやって生み出された製品が世の中で末長く使われることこそが、モノづくりのやりがいであり、そんなあたりまえの生産活動こそ、人々が「未来永劫続けていくべき仕事」なのでは、と言います。

近年は、北区にかぎらず、本社の東京移転が加速しているのを感じているそうで、「本社需要の製品が多いので、企業の本社移転は売り上げに直結する」とのこと。「Made in Osaka」こそが信頼のブランドになるよう磨き上げ、ビジネス環境に左右されない強いモノづくりを目指し、未来永劫輝く会社であり続けてほしい、と思いました。（MIKAWAN）

株式会社日本マーク製造所　所在地●大阪市北区豊崎 6-2-7　創業●昭和 33 年 4 月　HP●http://www.nippon-mark.jp　事業内容●金属看板・銘板・バッヂ等製造販売、カップ・トロフィー等記念品の販売

彼女とキタのラブストーリー
――第六回――

「JACK & BETTY」オーナー
おすぎ純子 さん

聞き手・書き手／依藤智子

大阪を元気にしたい、キタを元気にしたい。それが、尊敬するたかじんさんとの約束

ここ数年、テレビをつければ〝オネエ〟と呼ばれる方々を目にしない日はありません。〝オネエ〟や〝ニューハーフ〟は、今でこそ広く認知されています。

でも、そうではなかった時代から、この世界に身を置き、30年以上ものあいだお店を続けておられる方がいます。ニューハーフショーハウス『JACK & BETTY』のママ・おすぎ純子さん。言わずと知れた、キタの老舗店の名物オーナーに、お話をうかがいました。

男の人を好きなことと、男として生きることは別

満席のお客さんの笑い声が響く店内。お客さんの見つめる先には、きらびやかなステージの上でスポットライトを浴びながら、自虐ネタや毒舌を織り交ぜた軽快なしゃべくりでその場にいる全員を虜にする、着物姿の純子さんの姿があります。

艶やかで凛としながらも、人を寄せつけないのではなく、どこか親しみやすい大阪のおばちゃん。そんな印象です。

そんな純子さんが、自分のなかの〝性〟に気付いたのは子どもの頃。舞鶴で生まれ、神戸で育った純子さんは、生まれたときから男性が好きだったと言います。一方で、「男の人を好きなことと、男として生きることは別だと思ってます」と、きっぱり。

男らしく生きたいと子どもの頃から思っていたという純子さんは、服装も男装で過ごし、やんちゃをしていた時期もあり、腕っ節も強く、けんかでも負けたことがなかったのだとか。

当時の周りの反応やご自身のなかでの葛藤について「こういう世界があってもいいと思ってましたし、わかってくれる人とだけ付き合ったらいいと思ってました」と。口にはしない、たくさんの苦労もあったのだと思いますが、自らのマイノリティ性を前向きに捉え、強く歩んでこられたようです。数少ない先達には、美輪明宏（当時は、丸山明宏）さんがいました。

ショーが好きで、レビューをやりたかった

子どもの頃から、華やかな衣装を着て歌い踊る宝塚などのショーが大好きだった純子さん。ショー好きから、やがて自分でもレビューをやりたいと思うようになります。はじめた頃はお金もなかったけれども、おなじ気持ちの仲間たちと一緒に、全国各地のキャバレーなどを巡りながら、レビューをおこなっていたそうです。

また、お笑いも好きだったそうで、「人を笑わせるのが好きで、本当は漫才がしたかったんです」とも。ただ、純子さんのような方が簡単に漫才師になれるような時代ではなく、その夢は叶いません。それでも、劇場に足を運んでは、中田ダイマル・ラケットさんや夢路いとし・喜味こいしさんらの漫才を見て、間のとりかたやオチのつけかたを勉強したのだそうです。

漫才をしたいという夢は今も健在で、ナジャ・グランディーバさんとコンビでときどき漫才をされているそう。世代を超え、性別も超越した漫才がどんなものなのか、とても気になります。

また、お店を出される以前には、会社勤めも。就職したのが放送局で、配属先はなんとアナウンス室。1年間はスーツを着てニュースを読んでいたのだとか。「言葉の発音はそのときに覚えました」。早口のおしゃべりでもとても聞き取りやすいのは、そこに秘訣があったのですね。

いつかは自分のお店を持ちたいという夢を持ちながら、自分の好きなものを大切に、どんなときも真剣に学んでこられたからこそ、今の純子さんがあるようです。

そんなとき、理解あるビルオーナーとのご縁で、ショーをするのにちょうどいい場所を紹介されます。100坪で、柱がなく、うってつけの場所です。

そんなご縁から、ついに、ニューハーフショーハウス『JACK & BETTY』を出店。オープンは、昭和59年（1984年）4月4日。そう、「オカマの日」です。

「おなじ気持ちの人の受け皿になりたいという思いもありました」。ショーをやりたいという自分の夢のみならず、ニューハーフが社会のなかで生きにくかった時代に、そんなことも考えておられたのだそうです。

お母さんやからこそ叱れるし、褒めることもできるんです

「お客さんはママと呼ぶけれど、お店の子や他のお店の子からは、お母さんと呼ばれています」。

そんな純子さんに育てられた女の子は数多く、現在、お店のチーママを務めるセリさんもそのひとり。今や、ニューハーフのコンテストで世界4位の実力を持つ彼女ですが、19歳でお店の面接にやって来たときは、ビーチサンダル姿。「追い返そうと思ったんですけど、話を聞くと、田舎から出てきて所持金は千円。今日泊まるところもないというので、その日は私の家に泊めて、お家も探して、お店で働いてもらうようにしました。こんなに化けると思ってなかったですけどね」と、うれしそうに話されます。「お母さんやからこそ叱れるし、褒めることもできるんです」という言葉からは、母親の気持ちを兼ね備えた懐の深い経営者の姿がうかがえます。

「女の子たちには幸せになってもらいたい。当時はここしか生きる道がなかったけれど、そんなのは私だけでいいんです。今は戸籍上も女になれるし、結婚もできる。女として生きられますからね。自分のできることをして、それぞれの道で生きてほしいんです」と、力強く話されます。

純子さんがお店をはじめられた頃は、まだまだ偏見も多かったため、水商売以外の選択肢は極端に少なく、漫才師の夢も叶わなかった。やっと時代が追いつきはじめ、自分らしく生きる選択肢が増えてきた今だからこそ、我が子たちには自由に自分らしく生きてほしいと願う、ひとりの母親の姿が見えました。そんなふうに本当に相手のことを思いやれる純子さんだからこそ、多くの人に慕われる「お母さん」なのでしょう。

そのお母さん気質は、お店の外でも発揮されています。ボランティアで、性同一性障害の子どもの親御さんに対して、相談相手になる活動をされています。「歳をとったから言えるのかもしれないけれど、そういう助けがしたいと思ってます。ひとりでは限界がありますけど、少しでも力になれれば」。時間が許すときには相談に乗り、少しでも親御さんやお子さんが生きやすくなるよう手助けをされているとのこと。これもまた、おなじ境遇の人の受け皿となったり、よりよく生きてほしいと願う、純子さんの大きな母の愛がなせる技だと思います。

きれいに歌って、話で笑わせる

梅田の一等地でお店を30年以上続けるのは、並大抵のことではありません。『JACK & BETTY』を長く続けてこられた思いをお聞きすると、「大阪の人を元気にしたいという思いです。お店に来てもらったら、嫌なことを忘れてもらって、背中を押してあげる。明日もがんばろうという気持ちになって帰ってもらいたいんです」と。ショータイム中の純子さんのトークには、笑いを織り交ぜながらも、お客さんを鼓舞する言葉がたくさんあふれています。

「歌はきれいに歌って、話では笑わせる。うちのお店の子は性転換、お客さんは気分転換！　そんなふうに話でつかんで、歌はしっかり聞かせたいんです」。それが『JACK & BETTY』のスタイルです。

また、ママが主役を務めることが多いなか、純子さんは、終始前に出ているわけではありません。「私はトップスターになりたいわけじゃないんです。目立つのもそんなに好きじゃない。トップスターはきれいな子にやってもらって、自分は裏方だと思ってます」。ご自身はプロデュースするほうに向いていると、分析されています。

ここで働く人や住んでいる人が遊んで元気になってもらえるそんなまちであってほしい

昨今の観光客の増加を受けて、景気の話をお聞きすると、こんな答えが返ってきました。「なじみのお客さんを大切にしています。地元の人が通っている店のほうがいいですから」。「団体さんを入れてしまうと、なじみのお客さんが入れなくなってしまうでしょう」と、あたりまえのように話されます。100坪もあるお店なので、ツアー等の団体さんのニーズもたくさんあるはずですが、その日一度きりの団体客よりも、地元のなじみのお客さんを大切にし続けるのが、純子さんのポリシー。

大阪・キタへの思いも熱く、「キタとミナミは違いますから。ミナミは海外からの旅行客が本当に多くなっていますけど、キタは、ここで働く人や住んでいる人が、遊んで元気になってもらえるような、そんなまちであってほしいと思います」と、話します。

大阪を元気にしたい。キタを元気にしたい。

そんな大阪への熱い思いは、生前に親交の深かった、故・やしきたかじんさんの影響も大きいと言います。「半分以上、尊敬するたかじんさんの血が流れてますから」と、凛々しく話す純子さん。

その言葉からは、大阪を元気にしていきたいという熱い思いと、大阪を元気にするために活動されていたたかじんさんの遺志を継いでいくのだという、使命感にも似たものを感じます。

今後の夢をお聞きすると、「育てた女の子たちの活躍を見届けたいですね。あとは、やることやって、ばーっ！と死にたい」。我が子を思う母親の一面と、大阪を元気にして、潔く生きたいという男前な一面。その両面を持つ純子さんの魅力が詰まったひとことです。

純子さんは今日もきらびやかなステージの上、艶やかな着物に身を包み、お客さんを笑わせ、明日への活力を提供します。そして、最後は大阪への愛を、歌います。たかじんさんから形見分けでいただいたという、『東京』。客席を巡りながら、お客さん一人ひとりと握手をし、再びステージに戻り、最後の1フレーズだけは「東京」を「大阪」に置き換え、「悲しくて　悔しくて　泣いて泣いてばかりいたけど　かけがえのない人に逢えた　大阪」と歌い上げます。こんなにも大阪への愛が詰まった『東京』は、ここでしか聞けません。

今よりもずっと社会の理解が得られなかった頃から、30年以上お店を続けられてきた純子さん。彼女の言葉は清々しいくらい前向きで、質量を伴っているがゆえに、彼女の言葉はとても重く胸に届きます。言葉には表せられない多くの苦労や葛藤を乗りこえてこられたからこその、母親のような大きな愛と、男勝りのかっこよさが、彼女の言葉には宿っているのだと思います。（終）